

メダカが消える？！

今、田んぼ周辺の自然環境が大きく変わりつつあります。環境庁は今年2月に絶滅のおそれのある野生生物のリスト(レッドリスト)の見直しを行いました。その中に身近な生きものの代表メダカまでもが絶滅危惧種(ぜつめつきくしゆ)に加えられました。メダカの減った大きな原因として、全国規模の圃場整備(ほしやう)があげられます。上の写真は圃場整備の前と後の田んぼの様子です。圃場整備後の田んぼでは水路との間の段差が大きくなり、メダカなどの魚が入り込むことができなくなります。さらに、水路

部分の水の流れが早くなり、メダカのような泳ぐ力の弱い魚は流されてしまうだけでなく、隠れ場所や産卵場所となる水草も生えにくくなります。

博物館では3年前より、皆さんのボランティア参加による県下のメダカ生息調査を行っています。その成果の1部を今年夏の館蔵品展「自然コレクション」(7月17日～8月29日)に展示しますので、ぜひご覧ください。徳島のメダカはどうなっている？ (動物担当：佐藤陽一)

おかずの博物学

田辺 力

食事は四季折々のさまざまな生き物に出会える場です。毎日の食卓で、あるいは買い物のついでに、旬の生き物たちを観察してみましょう。

アサリの模様

食卓の定番、アサリについては、その模様が一つ一つ異なる(図1)理由について、博物館ニュース No. 33で一つの考え方をご紹介します。今回はそれを図にしてみましたのでご覧ください(図2)。



図1 アサリは一つ一つ模様が異なる。

アサリの模様についての一つの考え方 「少数者有利の選択説」

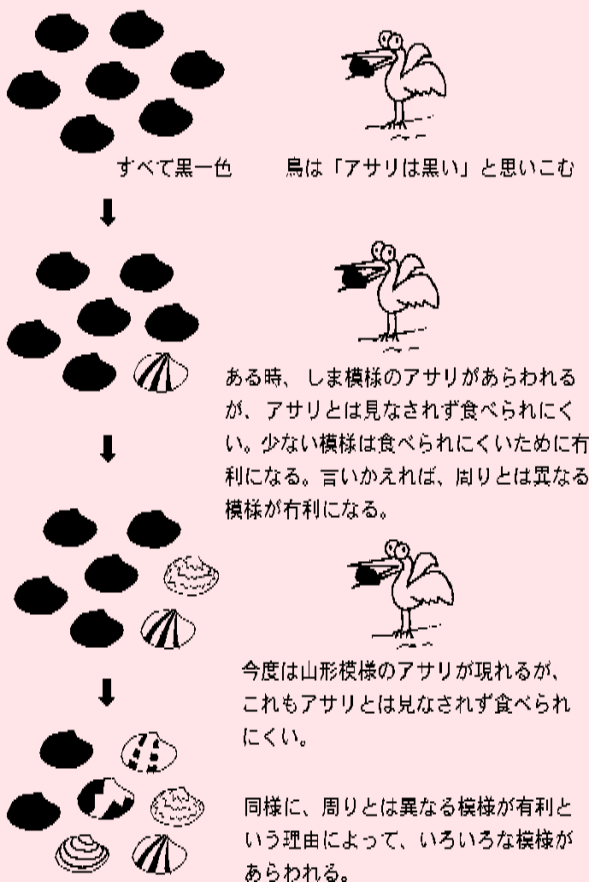


図2

ガザミの種類の見分け方

魚屋さんやスーパーでよくみられるものにカニにガザミ(渡りガニ)のなかまがあります。すでにお気づきかもしれませんが、ガザミにはいくつか種類があります。徳島で買うことのできるガザミは主に5種です(図3-5)。それらの見分け方を図6にかきました。甲らの形と模様、それとハサミにあるトゲがポイントです。種類によって味も少しずつ違いますから、今度、ガザミを召し上げる際には名前を調べてみてはいかがでしょうか。この5種のうち徳島でもっとも多いのはジャノメガザミで、紋ガニとも呼ばれています。ちなみに図6のように、図によって種類を見分けることができるようにしたものを検索図と呼びます。

ここでは名前の調べ方の一例をご紹介しますが、そもそも名前の役目とはなんのでしょうか。かんさつ会をしていて、いちばん多い質問は「この生きものの名前はなんですか」というものです。生き物にかぎらず、とかく私たちは「もの」の名前を知りたがりです。なぜでしょうか。名前には「めんどろな説明をしないですむ」という役目があります。にんじんを「にんじん」という名前なしで伝えようとすると、オレンジ色で長さは20cm ぐらいの細長い野菜で... となりめんどろです。名前の役割については日頃の会話では意識することはないのですが、名前は私たちの会話を楽にしてくれています。食卓にのぼる生きものの名前には、かぼちゃ、はまち、あさり、などなか

なか味のある語感をもったものが多くあります。これらは私たちの文化の大切な財産だと思います。なお、ガザミの足のつくりと働きについては博物館ニュースNo. 33で説明しています。

赤貝のかんづめ

赤貝の「赤」とはどういう意味でしょうか。かんづめをあけて中身をだしてみてもかっ色だし貝がらをみても白地にかっ色で赤ではありません(図7)。赤貝の「赤」は、実は私たちの体の中を流れる血の赤と関係があります。私たちの血が赤いのは血の中にヘモグロビンという赤い色素があるた

めですが、赤貝の血にもヘモグロビンに近い構造をもつエリトロクルオリンというやはり赤い色素があります。無せきつ動物(背骨をもたない動物)では赤貝の他に、ゴカイやミミズのなかまなどにも赤い血をもつものがあります。ついでに一つ種明かしをすれば、赤貝のかんづめに使われている貝は実はアカガイという種類ではなく、アカガイに近いサルボウガイという貝です。かんづめの内容物の説明のところを見ると、ちゃんと「赤貝(さるぼう貝)」と書いてあります。

(主任学芸員:動物担当)

魚屋さんやスーパーで買える ガザミ(渡りガニ)の名前しらべ

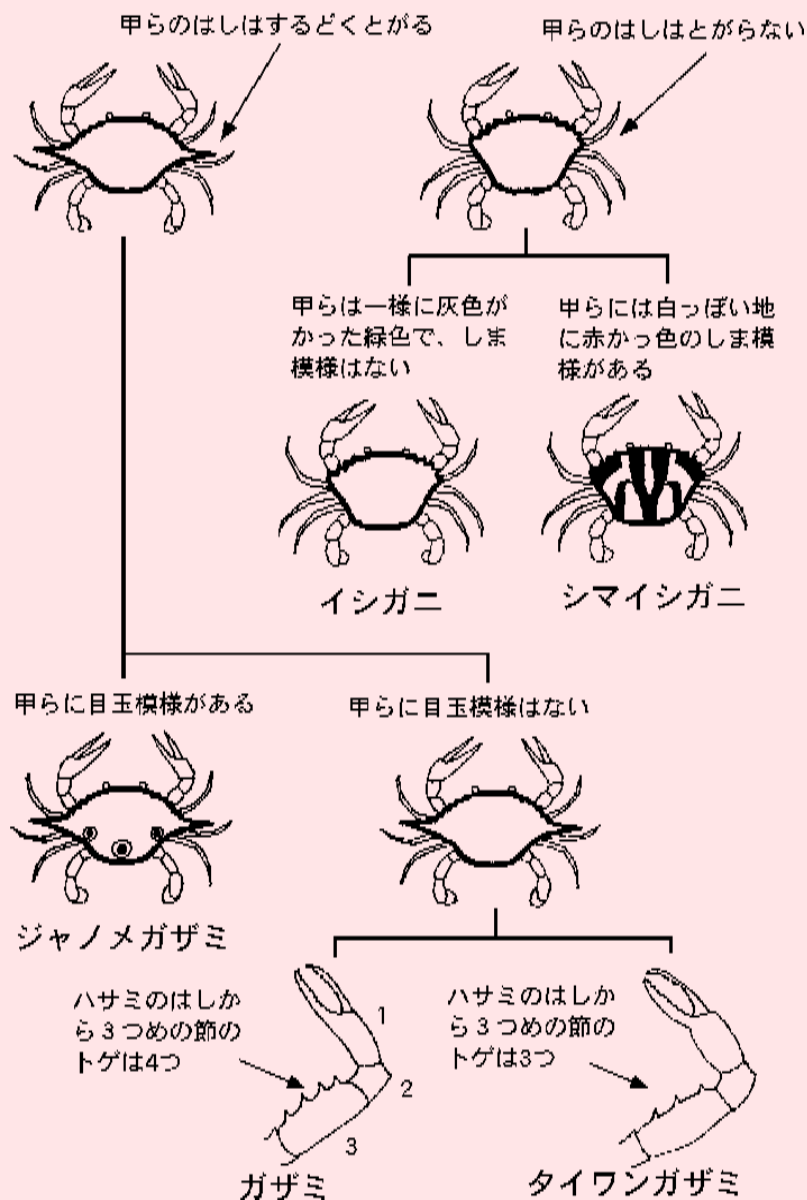


図6



図3 ジャノメガザミ



図4 ガザミ



図5 イシガニ



図7 アカガイ(左)とサルボウガイ(右)

前山1号墳の発掘調査

博物館では平成8年2月に前山古墳群の墳丘の測量調査をおこないました。1号墳と2号墳の墳形をほぼ推定でき、ともに長さ18mほどの非常に小さな前方後円墳であることがわかりました。平成10年3月には、前山古墳群から北の方に下がる尾根筋ごとに古墳の分布調査をおこなって、新たに数基の古墳を発見しました。

このような成果を踏まえた上で、平成11年2月～3月に前山1号墳の発掘調査をおこないました。

発掘に先立って倒木や小さな立木を片付けたので、前山1号墳のまわりは大きく開けて、遠くからでも古墳の形を観察できるようになりました。今回の調査では、石室には手を付けず、墳丘だけの調査をおこないました。古墳の規模及び前方後円墳であるかどうかを明らかにすることを発掘の主目的としたからです。

1号墳は、2基の円墳ではなく、明らかにくびれ部が存在し後円部から前方部へと続くことがはっきりとしました。

くびれ部から前方部の中ほどまでの裾の部分は緑色片岩の岩盤を削りだしており、その上に薄く土を盛っています。裾からの比高は、低いところ

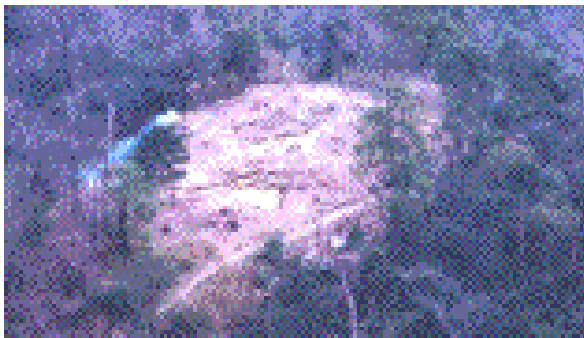


図1 前山1号墳完掘（遠景）



図2 前山1号墳完掘（近景）



図3 前方部（第2トレンチ）の調査



図4 後円部（第3トレンチ）の調査

で約30cm 不足です。

前方部の端ではほぼ垂直に石が葺かれ、前方部の中ほど付近から端に向かって三味線のパチのように開いています。しかしながら、前方部の最大幅はわかりませんでした。

後円部では斜面全面に石が葺かれるわけではなく、盛り土の中へ列をなして石を埋め込んでいました。これが3列確認できた所もあります。

古墳の全長は17.7m ありました。前方部の長さは9m 不足で、後円部の直径は9.7m 程度と推定されました。前方部の長さとは後円部の直径の比率は、ほぼ1:1 となります。前方部、後円部ともに1段でつくられていました。

今回の調査によって、前山1号墳が前方後円墳であることがはっきりとしました。また、規模についてもほぼ明らかとなり、当初の目的をはたすことができました。

この古墳の造営時期については、前方部がバチ形に開くので古い時期のものとも考えられますが、石室の調査、墳丘の補足調査を行って、さらに検討を加えてから明らかにしていこうと思います。

（考古担当：高島芳弘）

企画展のご案内

館蔵品展 自然コレクションI

(観覧無料)

博物館では採集、寄贈、購入などのさまざまな方法で資料の収集をおこなっています。常設展示や企画展で資料を展示していますが、それらは全体のなかのごく一部で、まだみなさんにお見せしていないものがたくさんあります。今回の館蔵品展では自然関係の資料のなかから、ふだん展示機会の少ない資料、代表的な寄贈資料、視覚効果の高い資料、などを選びすぐってご紹介します。くわえて県民の方々の協力を得て実施しているメダカ調査の報告もおこないます。観覧は無料ですのでお気軽におこしください。

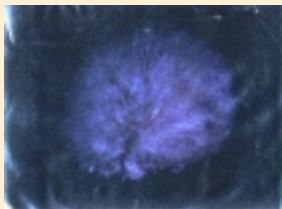
会期 7月17日(土)～8月29日(日)

月曜日休館

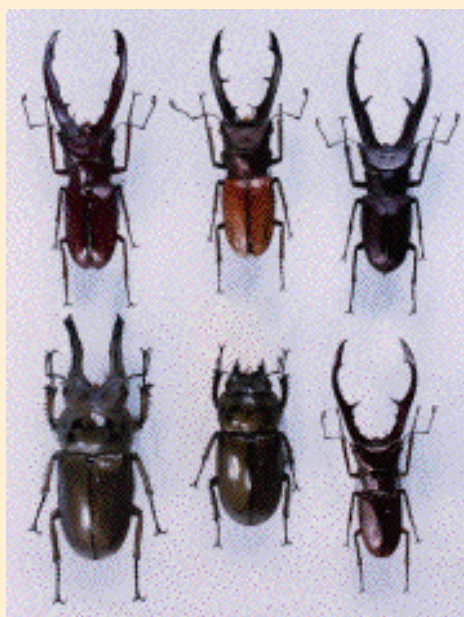
会場 博物館企画展示室

主な展示資料

世界の化石、鉱物、甲虫、蝶、タカラガイ。路傍の植物100種。メダカ調査の報告。板東コレクション(化石)、阿部コレクション(植物および陸産貝類)、赤澤コレクション(植物)、獣・鳥類等のはく製(寄贈)。



スコレス沸石、インド



世界のクワガタムシ

伊能忠敬が描いた日本
徳島大学附属図書館所蔵伊能図を中心に、幅広く地図の歴史を紹介。最新のデジタル画像データも一挙公開予定!

主催 徳島県立博物館・
徳島大学附属図書館

後援 徳島地理学会

会期 9月10日(金)
～10月11日(月)

最終日以外の月曜日休館

会場 博物館企画展示室

観覧有料

関連行事

講演会 9月19日(日)

「江戸幕府の絵図作成と伊能図」

展示解説 10月3日(日)



伊能忠敬像
(佐原市諏訪公園)

発掘された日本列島'99 新発見考古速報展

全国各地でおこなわれている発掘調査のなかから、近年とくに注目された成果を紹介し、あわせて埋蔵文化財保護の大切さを考えます。

主催 文化庁・徳島県立博物館

会期 10月24日(日)～11月21日(日)
月曜日休館

会場 博物館企画展示室・人文部門展示室

観覧有料

関連行事

講演会 10月30日(土)

「貝塚 ゴミから読みとく歴史」

調査報告会

10月31日(日)

展示解説

11月3日(水)

11月14日(日)

観音寺木簡
(徳島県立埋蔵文化財
総合センター提供)

さかい目っておもしろい

勝浦川河口の塩生植物

昼と夜の間には夕方があります。夕方は昼でもなく、夜でもない微妙なひとときで、黄昏れ時として歌われることも多く、この時間の好きな人もたくさんいることでしょう。このように2つの現象にはさまれたさかい目では、それらが混じりあって、だんだん変化していく領域ができます。川が海に流れ込む河口域もその一つです。

徳島市勝浦川の河口を覗いてみましょう。旧国道55号線の勝浦浜橋の下にヨシ原が広がっています。近づいてみると、潮が満ちてくると水につかる場所に、もこもことした、見られない植物がはえています。これはフクドというヨモギのなかまです。日本に生えるフクド以外のヨモギのなかまは、草原のような乾いた場所に生えるものばかりで、フクドのように水につかるような場所に生えるものはありません。勝浦川河口にはヨモギ、ヒメヨモギ、オトコヨモギ、カワラヨモギといったヨモギのなかまがたくさん生えていますが、どれも土砂がたくさんたまって陸地になった場所で、フクドとは異なった場所に生えています。

フクドの葉を触ってみましょう。多肉植物のように葉が厚く、表面がてかてか光っています。これもほかのヨモギのなかまに見られない特徴です。フクドが生えるような、河口の潮が満ちてくると水につかる場所はふつう干潟と呼ばれますが、植物生態学では塩沼湿地と呼ばれています。塩沼湿地は、塩水と真水が混じって汽水になっており、そうした場所に生える植物の多くが、フク



図1 観察地の場所。



図2 満潮時に水につかる場所に帯状に生える塩生植物。

ドのように葉があつぽたく、その表面がてかてか光るという特徴をもっています。これは、浸透圧の高い汽水に体内の水分をとられないための工夫といわれています。勝浦川河口にはハマサジ、ハマツツナ、ホソバノハマアカザが生えていますが、このような特徴を持っています。

塩沼湿地に生える植物は塩生植物と呼ばれていますが、こうした場所は川の河口や浅い内湾にしかなく、場所そのものが少ないことに加えて、人の手が加わっているところが多く、なかなかよい状態には保たれていません。そうしたなかでも勝浦川河口は徳島県でも最大級の塩生植物群落があり、『籠の塩生植物群落』として環境庁の特定植物群落に指定されています。

フクドは吉野川や那賀川にはみられません。フクドの葉をちぎって匂いをかぐと、すがすがしいとっても良い匂いがします。残念ながら、この場所にはたくさんのごみが目立ちます。上流から流れてきたものに加えて、投棄されたもの、さらに野焼きされたものが見立ちます。ぜひ、さかい目のおもしろさに触れて、そうした行為がないようにしたいものです。（植物担当：小川 誠）



図3 視線を低くしてみるとマングロープのミニチュアのようにも見えるフクド。

Q. 古代の人が水銀を飲んでいたというのはほんとうですか？

A

この質問に対するお答えは「はい」です。もっと正確には、おそらくほんとうだろうと思われます。と言っても、体温計などの中に見られる銀色の液体金属である水銀そのものを飲んでいたのではなさそうです。

古代中国の神仙思想では、朱が仙薬であるとされ、いわゆる「不老長寿」の妙薬であるとされていたのです。朱とは硫化水銀のことで、辰砂といわれる鉱物からつくられる鮮やかな赤色の顔料のことです。「水銀」とつくので中毒をイメージしてしまいがちですが、硫化水銀は無機水銀で、水俣病を引き起こした有機水銀とは違います。

わが国で辰砂が使われはじめたのは、縄文時代後期にまでさかのぼります。漆も ぜて着色剤として使われたり、土器などに塗られていたことが出土する遺物から確認されています。これより以前からも赤い顔料はありました。それはベンガラと呼ばれているもので鉄サビと同じような成分の酸化第二鉄です。辰砂とベンガラは同じ赤色の顔料ですが、辰砂は限られた場所ではしか採れないのに対して、ベンガラは比較的どこでも採れたため、圧倒的に多く用いられていたようです。入手の難易から考えても辰砂は圧倒的に貴重なものだったはずで

す。古くから死者の埋葬に赤い顔料を使う風習があったようですが、この風習はいったんすたれてしまいます。弥生時代の終わりごろになって九州の北部などを中心に再び埋葬に赤色の顔料を使う風習が見られるようになります。同じ頃、中国が



図2 阿南市若杉山遺跡出土石臼・石杵

ら神仙思想の考え方が伝わり、朱が珍重されるようになります。しかし、神仙思想では赤色の顔料として朱が珍重されたのではなく、朱そのものが持つ性質、すなわち熱すると銀色の液体となった



図3 辰砂で赤く染まった石杵

り、黒や白、黄色と変色し、再び硫黄を混ぜると鮮やかな赤色の朱になるという性質が、古代の人にはさも不老長寿を連想させるような不思議な物体としてとられられたのだと言われていま

しかし朱の持つ本来の意味が理解されるようになるのはおそらく弥生時代の終わりから古墳時代のはじめにかけて、首長個人の埋葬に大量の辰砂が使われるようになったときであろうと思われます。このころには辰砂は一部の権力者によって独占されるようになり、生前は仙薬として服用していたことも十分考えられます。そして、死後は権力の象徴として築かせた巨大な墓の中で、これまた権力の象徴である朱に彩られた墓室や棺の中で永久の眠りについたのでしょう。

(保存科学担当: 魚島純一)

7月から9月までの博物館普及行事

あなたも参加してみませんか？

シリーズ	行 事 名	実 施 日	実 施 期 間	対 象 (人 数)
野外自然かんさつ	光に集まる昆虫をみてみよう	7月10日(土)	19:00~21:00	小学生から一般(25名) 2
	水生昆虫のかんさつ	7月31日(土)	10:00~12:00	小学生から一般(35名)
	秋の鳥く虫	9月11日(土)	19:00~21:00	小学生から一般(25名) 2
	河口の生きもの	9月12日(日)	12:30~14:30	小学生から一般(70名)
土 曜 講 座	概説：徳島の地質	7月10日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50名)
	旅をするチョウ・アサギマダラ	8月14日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50名)
	大名行列のはなし	9月11日(土)	14:00~15:00	小学生から一般(50名)
歴 史 散 歩	徳島城跡を歩く	7月11日(日)	10:00~12:00	小学生から一般(35名)
体 験 学 習	火おこし	7月25日(日)	10:00~12:00	小学生から一般(30名) 2
	石やりをつくろう	8月29日(日)	13:00~16:00	小学生から一般(30名) 2
室内実習	かんたんな貝の標本のつくりかた	8月7日(土)	14:00~16:00	小学生から一般(40名)
	植物標本のつくりかた・名前のしらべかた	8月8日(日)	10:00~16:00	小学生から一般(30名)
	きれいな葉脈のしおりづくり	8月22日(日)	13:00~16:00	小学生から一般(30名)
	標本の名前をしらべる会	8月25日(水)	10:00~16:00	
	レプリカづくり (型どり)	9月5日(日)	13:00~16:00	小学生から一般(30名)
	レプリカづくり (色つけ)	9月12日(日)	13:00~16:00	レプリカづくりの参加者
企画展関連	講演会「江戸幕府の絵画作成と伊角図」	9月19日(日)	13:30~15:00	小学生から一般(300名)

は申し込み不要です。その他は往復はがきでお申し込みください。(各行事の1カ月前から10日前までに届くように)

2は小学生の場合保護者同伴。

3はレプリカづくり とセット。両方参加可能者のみ。

部門展示(人文)のご案内

「復元された青銅器たち」描かれた職人たち - 絵に見る中世 - 」

常設展のうちの部門展示室(人文)で、収蔵資料をもとに上記2テーマの展示を開催しています。ふるってご観覧ください。

会期 平成11年5月18日(火)~8月1日(日)

観覧料 通常の常設展観覧料

(一般200円/高校・大学生100円/小学生50円) 団体2割引

概 要

「復元された青銅器たち」

最近、銅鐸や三角縁神獣鏡など青銅器の出土が話題を集めています。しかしこれらの青銅器は、長い間土中に埋まっていたために、青緑色のサビに覆われるなどしています。青銅器の成分に近い材質で復元鑄造された青銅器を展示していますので、青銅器の本来のすがたを味わっていただきたいと思ひます。

おもな展示資料

復元青銅器 銅鐸

銅鐸復元製作工程写真パネル

復元青銅器 銅矛・銅剣・銅戈

復元青銅器 三角縁神獣鏡

「描かれた職人たち - 絵に見る中世 - 」

今日「職人」といえば、手工業に携わる人を指しますが、中世にはさらに商人、宗教者、芸能者、医師など、さまざまな職能の人々を含んでいました。これら中世の職人たちを描いた資料に職人歌合絵巻があり、当時の社会的分業や民衆の世界の一端を知ることができます。

職人歌合絵巻をもとに、職人のすがたや中世の身分制について紹介し、あわせて近世の職人絵にも目を向け、中世・近世の社会の違いを考えてみます。

おもな展示資料

東北院職人歌合絵巻(複製)

鶴岡放生会職人歌合絵巻(模本)

三十二番職人歌合絵巻(模本)

七十一番職人歌合絵巻(模本)

今様職人尽歌合

一遍上人絵伝(複製)

囊鈔